

さようなら樽真布  
小中学校



留明市における唯一の小中併置校である、樽真布小中学校が開校以来八十八年間の歴史を三月末を持って閉校となり、永い歴史に幕をおろすことになりました。

明治三十七年が第一回の入植で、樽真布小学校は明治三十八年十一月十七日に宮崎弥十郎所有の納屋で開校式が行われました。教師は、第二教習所(幌糠)の宮崎代用教員が日曜日ごとに出張授業をしたという。明治三十九年の四月に校舎を建て、明治四十年一月に留明第二簡易教習所となり、大正四年三月に樽真布教習所、大正六年四月に樽真布尋常小学校と改称になるまで十幾年にわたる部落民の絶えざる努力がありました。大正十年十月には校舎の全面改築、昭和二十六年十月には校舎移転増築、現校舎は昭和四十一年五月に新築完成。樽真布中学校は昭和三十年併置開校されています。

樽真布小中学校は、地域融合一体の教育実践の場として、学校・家庭・社会の一本化が真の教育であるという考え方を柱に、「未来を生きる人間性豊かな子供づくり」を行い、今まで小学校四一六名、中学校一六六名にもおよぶ卒業生を社会に送りだしています。

しかし、社会状況の変化は、樽真布小中学校にも生徒の減少という影響をあたえ、ついに三月をもって閉校ということになりました。



子どもを大切にす  
る教育をめざした  
樽真布小中学校。

樽真布小中学校

樽真布小中学校校歌

坂本富貴雄 作詞  
新野 仁助 作曲

- 一、郷土を拓く  
教えとたく  
かざす勤勞 我らの誓い  
あ、樽真布少年少女  
黄金のその徒  
望みはあふる
- 二、日本を興す  
教えとたく  
かざす責任 我らの誇り  
あ、樽真布少年少女  
緑の山と 力はある
- 三、世界を築く  
教えとたく  
かざす協力 我らの理想  
あ、樽真布少年少女  
暑寒の峰と 光はあふる



体育館



全員が集まっての給食

